

# 園長だより NO51

## 通常保育への段階的な回帰へ

新型コロナウイルス感染による緊急事態宣言が39県で解除されたことを受けて厚生労働省は保育所(園)について原則として開園するように都道府県に通知を出した。登園自粛、臨時休園措置をとっていた保育園では通常保育への新たな取り組みが模索されています。

ここ数カ月、各園の状況は異なりますが保育園の利用児童数(登園)は保護者の協力を得てかなり低いものになっています。おおぞらでは全児童数の3割程度の出席です。

いち早く宣言が解除された県は徐々に登園児童数が増えています。

ある園では今月いっぱいの家庭保育を考え勤務調整をしている家庭が大半のため登園自粛を継続して段階的に出席率をあげる仕組みができ、なんとか通常保育回帰への方策をうてるという。

## 登園自粛の中で

保育園では子ども、保護者の感染、保育士自らの感染に最大の注意をはらってきた、登園児童数の減少により食事、午睡などもそれぞれの距離を保ちながら対応ができていました。

職員にも感染のリスクを低減する対応ができ在宅勤務などの勤務体制をとることも可能になりました。

いち早く宣言終了の地域の保育園からは

登園自粛期間中に比べ感染防止対応はかなり厳しものになっているという、空間の密集度は増していく、小学校のように児童の分散登校などの対応は考えられない、今までのようなソーシャルディスタンス(社会的距離)はすべての子ども達が登園することで崩れてしまうという。

以前no49で千葉市の熊谷市長のコメントを取り上げました。

「現在の知見では子どもは地域において感染拡大の役割をほとんど担っていないというエビデンス情報を得ている…」と言う。

大人が感染拡大を担っていることは間違いない事実とすると大人の意識、行動が感染防止のカギを握っている。

私は3密に加え密着もあり4密と考えています。通常の保育再開は新たな対応を要求されますが自粛期間中の対応から危機管理、感染防止については保育士も児童も生活の中で当たり前になってきている。当たり前とは手馴れてきた事とは異なり、目に見えない感染症に対して日々、繰り返し対応する感染対策が定着していることです。

## 今後の動向が気になります。

緊急事態宣言が継続している8つの都道府県について政府は21日をめどに解除できるかどうか改めて判断する予定です。

首都圏の東京、埼玉、神奈川、千葉については生活圏が密接につながっているだけに一体的に判断すると考えられます。一斉に解除で

きるかは大都市、東京、大阪の感染状況が焦点になると言えます。

先に取り上げた、いち早く宣言が終了の地域同様、政府の意向を待つ身である保育園は幾つもの対応を考えねばなりません。

鎌ヶ谷市は緊急事態宣言終了後も引き続き登園自粛を要請させていただくと4月27日の鎌幼保第239号の通知で知らせている。

保育園としても段階的に出席率が上がるのが保育運営としては良いと考えるが各家庭、事業主の理解が得られなければそうはいかない。

この2か月間、協力していただいてここまで来たことに感謝しています。

宣言終了後の保育運営については政府の明確な発表後に市の意向、保育園の実情を精査してお伝えすることになります。

## 子どものことについて (歩くことその1)

なかなか子どものことについてあれこれと書く機会が削がれていることを反省しています。

私事ではありますが1歳に満たない孫がいます。ハイハイもままなら

ないと思っていたのもつかの間、コロナの影響で数カ月会うこともなく、いつのまにかつかまり立ち、座位を立位にと身体の成長は早いものであり、喜ばしいことでもあります。「なんで人は二本の足で直立にあるのだろうか? どうしてなんだろう?」



いまだに解明されていないこの二足直立歩行です。

私は「人間はとにかく好奇心旺盛、探求心旺盛、いろんな世界をみたい、しりたい、試したい、」そんな存在、赤ちゃんなら尚更、いろいろな世界を体験したいものだと思います。

生まれてしばらくは寝てばかり、天井を眺めてばかり、時折、抱かされると視界は一変、「なにになに この情景は、寝ているときとは違うよ」驚きの発見、うれしいな、楽しいな、できた、できた、感情の芽生えと獲得

ハイハイをしていろいろな探索活動に精を出す、ひよんなことから立ち上がり、違う目線で物をみてる。「これまた驚き、世界が違う!」



一年余りで立ち上がるとここからは自ら進んで探索活動をする。自由になってきた移動と自由に使えるようになってきた手をつかい次々と世界を発掘、学びもある。

「こんなこと、あんなこと できるんだ」「僕、わたしも 生きていることを実感」子どもなりの生きている喜びを日々、感じていることがひしひしと伝わる。

今年もまた入園した子ども達の歩行への筋道がみられることを今からわくわくしています。

子ども達の一瞬、一瞬にドラマがあり、そのエピソードが生まれます。

(園長 廣部 信隆)